合格体験記（一般入学試験）

生活科 学部 人間生活 学科 専攻

出身高校名 大阪府立 春日丘 高校

（1）同志社女子大学を志望校・受験校と決めた理由。

家から通える距離の大学で、住居系を学べる大学を探し、オープンキャンパスに行った中で、同志社女子大学が一番自分に合っていると感じたからです。また、大学案内にのっていた先輩の就職先が、私の希望する職種とすごく近かったことも大きな理由です。

（2）一般入試対策としての受験勉強の進め方について。

〔1学期〕

4月頃から、入試対策を始めました。部活をしていたので、部活帰りにそのまま塾に向かうようになりました。私は夏休みを体育祭の応援団の練習についやすと決めていたので、夏休みの勉強の分を、この時期に前倒ししていました。1学期のうちに、すべての教科の基礎を固め、特に英語の文法を勉強しました。この頃はセンター模試では5割ぐらいでした。

〔夏休み〕

文化祭におけるダンス部の練習と、体育祭における応援団の練習で、ほとんどまとまった勉強時間がとれませんでした。しかし、そのすきま時間の移動時間や食事中に英文法の確認をしたり、英単語を覚えたりしていました。また、寝る前の時間は、暗記するのが一番いいと聞いたので、実行しました。とにかく夏休みは時間がなかったので、時間の有効活用を常に意識して動いていました。この頃はセンター模試では5割5分ぐらいでした。

〔2学期～入試直前〕

私は第二志望の他大学の公募推薦を受けていたので、文化祭が終わってからは、とことん大学の過去問と、センター試験の過去問を解いていました。ここで、気を付けていた事は、間違えた問題を理解するまでやり直すということです。ただやり直すことと、理解するまでやり直すことは違うと思うので、間違えたものは、参考書や教科書まで戻って、復習をかかさずしていました。必ず基礎をおろそかにしないように、意識していました。問題への慣れも大切だと思ったので英文を多く読んだり、数学の問題のパターンを多く見たりしていました。この頃、本番のセンター試験では、8割に達し、センター利用入試もうまくいきました。

（3）この一年間の受験生活において、受験勉強と高校の行事やクラブ活動の両立、健康面での注意、テレビとの付き合い方、スランプとその対処法について。

成績がなかなか伸びず、とても不安だったのですが多くの先生方の「基礎をしていれば伸びる」「現役生は最後に追い上げる」という言葉を信じて最後まで頑張りました。また部活や行事も忙しかったので、なかなかまとまった時間がとれなかった分、すきま時間と効率を意識していました。健康面では、インフルエンザが一番怖かったので、インフルエンザの予防効果があると聞いたヨーグルトを毎日食べていました。あとはどれだけ勉強に危機感を感じても、徹夜だけは絶対にしませんでした。また午前の効率を上げるため、朝食を必ず食べていました。あとは、ストレスを溜めない為に時々思いきり遊んで息抜きをしたりしていました。

（4）受験を終えて、受験生のみなさんへのメッセージ。

「成績は比例グラフではなく、二次関数的に伸びる。」これは、すごくよく言われていることですが、自分が受験生の時は、なかなか信じられませんでした。しかし、頑張れば頑張った分、必ず成績はついてきてくれると思うので、志望校を選ぶ時は、「行ける大学」より「行きたい大学」を目指してほしいです。成績の伸びの限界は自分で決めるものではないと思うので、自分を信じて頑張ってください!!